

## ナイトセミナー（第1回）「詠みこまれる想い～短歌の世界」

### 1. はじめに

#### 1) 自己紹介

**歌歴：**学生時代より短歌をはじめ、1960年ポトナム短歌会入会、風景短歌会などに参加。作歌のかたわら、ジェンダー、天皇制などの視点から短歌史を問い直しながら、現在に至る。2002年千葉市女性センター入門講座「短歌に挑戦」受講生による短歌ハーモニーの会発足。

**千葉県との縁：**1940年、東京池袋生。学齢前に佐原に疎開、池袋に転校。佐倉市に1988年以来居住。1965～1994年まで国立国会図書館を経て、名古屋市・八千代市の大学図書館に勤務。

**著作：**歌集に『冬の手紙』（1971年）、『野の記憶』（2004年）。

著書に『短歌と天皇制』（風媒社 1988年）、『短歌に出会った女たち』（三一書房 1996年）『現代短歌と天皇制』（風媒社 2001年）。共著に阿木津英・内野光子ほか『ジェンダーからみた短歌史・扉を開いた女たち—1945～1953』（砂子屋書房 2001年）、渡辺澄子ほか編『女たちの戦争責任』（東京堂出版 2004年）等。

**略歴ほか：**

#### 2) 本セミナーにあたって

**聴講の動機：**

**講師の願い：**

### 2. 短歌の歴史

1) 万葉集から1300年、古今集から1100年、新古今集から800年。みだれ髪から100年以上

2) うた、和歌、短歌の歴史。新派和歌、旧派和歌。

詠む、作る、書く……。 読む、朗詠、朗読、披講、絶叫……。

### 3. 女性短歌史一人と作品 参照後掲 現代女性短歌史年表

近・現代短歌史を次の3期に分けて、女性短歌の足跡を主要女性歌人とその作品でたどる。女、家族、夫、子どもなどをテーマにした作品3首をあげ、鑑賞する。作品略、別紙資料。

#### 1) 1945年前（明治・大正・昭和前期）

与謝野晶子(1878～1942) 明星

今井邦子(1890～1948) アララギ、明日香

岡本かの子(1889～1939) 明星、スバル

四賀光子(1885～1976) 潮音

若山喜志子(1888～1968) 創作

#### 2) 1945年後（昭和後期）

斎藤史(1909～2002) 短歌作品、日本歌人、短歌人、原型

五島美代子(1898～1978) 心の花、立春

山田あき(1900～1996) 短歌評論、鍛冶（航海者、氷河）

葛原妙子(1907～1985) 潮音

中城ふみ子(1922～1954) 新墾、辛夷、潮音

馬場あき子(1928～) まひる野 かりん

三国玲子(1924～1987) アララギ、潮汐、求青

#### 3) 1989年前後～（平成）

河野裕子(1946～) コスモス、塔

道浦母都子(1947～) 未来

阿木津英(1950～) 未来、牙、あまだむ

ほかに、今野寿美(1952～) かりん、りとむ、栗木京子(1954～) 塔、松平盟子(1954～)

コスモス、プチ・モンド、小島ゆかり(1956～) コスモス、米川千嘉子(1959～) かりん

俵万智(1962～) 心の花、らに言及。

#### 4. 歌集のいろいろ・・・

##### 1) 短歌ハーモニー歌集『青葉の森へ』(2006年)より

- |                                |        |
|--------------------------------|--------|
| ・ふるさとは無数の桜果てしなく霞となりて天に昇りぬ      | 佐藤 ふみ子 |
| ・春も海も線路のその先ひと思う五十路の我も青春切符      | 福井 直 美 |
| ・鳴りやまぬ拍手に再び現れる主役のマクベス美声とどろく    | 美多賀鼻千世 |
| ・みどりごが歩み初むるをはやされて何処へ続く一步か知れず   | 前田 絹 子 |
| ・蛇のごと力強くて悠然とめだかの大群は今日も生き抜く     | 松田 寿 子 |
| ・頂に立ちし日はるか甲斐駒の白き姿のまなかいに見ゆ      | 大堀 静 江 |
| ・古希を経てまた歳重ぬ茫々と忘却の世に棲むわれならむ     | 海保 秀 子 |
| ・それからと付け足すはずの前にある沈黙に君の本音ひそみぬ   | 渡辺 真佐子 |
| ・春の日をたっぷり吸いし布団にてこぼさぬようにやさしく仕舞う | 菊池 邦 子 |
| ・白き山めぐれば少年セザンヌの遊びし石切り場までに迫り来   | 内野 光 子 |

##### 2) 鳥海昭子『ラジオ深夜便誕生日の花と短歌の365日』(NHK出版 2005年)より

- ・紫陽花ははでんでん虫と仲良しだ ひとり言う子のクレヨンうごく(6月15日)

\* 作者は 2005年10月9日没

##### 3) 俵万智『プーさんの鼻』(文芸春秋 2006年)より

- ・みどりごの眠りは深し口もとのガーゼかすかに震わせながら
- ・不良債権のような男もおりまして時々過去からかかる呼び出し

#### 5. 新聞歌壇選者一覧(2006年)

朝日歌壇／朝日新聞(月) 馬場あき子・佐佐木幸綱・高野公彦・永田和宏  
共選各10首総評8行  
千葉歌壇／朝日新聞千葉版(水) 藤田武  
25首、3首短評  
東京歌壇／東京新聞(日) 岡野弘彦・佐佐木幸綱  
各12首、2首短評  
毎日歌壇／毎日新聞(日) 玉城徹・篠弘・河野裕子・加藤治郎  
11首、1首のみ短評  
毎日房総文園・短歌／毎日新聞千葉版(金) 米川千嘉子  
9首、2首のみ短評  
読売歌壇／読売新聞(日) 清水房雄・田谷鋭・岡野弘彦・俵万智  
日経歌壇／日本経済新聞(日) 岡井隆・栗木京子  
産経歌壇／産経新聞(日) 伊藤一彦・小島ゆかり

#### 6. 主な短歌雑誌、入門書など

##### 1) 短歌(総合)雑誌

短歌研究(短歌研究社、講談社系) 1932年(改造社)～  
短歌(角川書店) 1954年～  
短歌現代(短歌新聞社) 1977年～  
現代短歌雁(季刊、雁書館) 1987年～  
歌壇(本阿弥書店) 1987年～  
短歌往来(ながらみ書房) 1989年～  
NHK短歌<NHK歌壇改題>(NHK出版) 1997年～2005年、2006年～

##### 2) 主な入門書

(入門書) 栗木京子『短歌を楽しむ』(岩波ジュニア新書) 岩波書店 1999年  
(入門書) 安森敏隆・上田博『近代短歌を学ぶ人のために』世界思想社 1998年  
(歴史) 篠弘『疾走する女性歌人一現代短歌の新しい流れ』(新書) 集英社 2000年  
(アンソロジー) 高野公彦編『現代の短歌』(学術文庫) 講談社 1991年  
(アンソロジー) 篠弘編『現代の短歌・100人の名歌集』三省堂 2003年  
(アンソロジー) 小高賢編『現代短歌の鑑賞101』新書館 1999年  
(辞典) 馬場あき子ほか編『現代短歌大事典』三省堂 2000年  
(例歌集成) 千勝三喜男『現代短歌分類集成』おうふう 2006年

## 現代女性短歌史年表

- 1889年 大日本帝国憲法公布
- 1894年 日清戦争
- 1898年 正岡子規「歌よみに与ふる書」、伊藤左千夫に継承、1903年『馬酔木』創刊
- 1899年 『明星』創刊。1901年与謝野晶子『みだれ髪』
- 1904年 日露戦争
- 1908年 『アララギ』創刊
- 1909年 『スバル』創刊、『明星』を継ぐ
- 1910年 石川啄木『一握の砂』、大逆事件、日韓併合
- 1911年 『青鞥』創刊
- 1913年 北原白秋『桐の花』 斎藤茂吉『赤光』刊
- 1914年 第1次世界大戦
- 1920年代 口語短歌、自由律短歌、プロレタリア短歌運動起る
- 1924年 治安維持法、普通選挙法公布
- 1931年 満州事変
- 1936年 今井邦子『明日香』創刊。五島美代子『暖流』刊。2・26事件起る
- 1938年 国家総動員法公布
- 1940年 『新風十人』、大政翼賛会結成、大日本歌人協会解散
- 1941年 日本文学報国会短歌部会発足、太平洋戦争起る
- 1945年 敗戦
- 1946年 第二芸術論起る。日本国憲法公布。
- 1947年 労働基準法公布。民法改正、家制度の廃止
- 1949年 女人短歌会結成、『女人短歌』創刊
- 1950年 朝鮮戦争始まる
- 1951年 釈迢空「女人の歌を閉塞したもの」、塚本邦雄『水葬物語』刊、短歌全集の刊行相次ぐ
- 1953年 斎藤茂吉、釈迢空没
- 1954年 中城ふみ子、寺山修司登場。『短歌』創刊
- 1958年 四賀光子、五島美代子歌会始選者となる
- 1960年 春日井建『未青年』、新安保条約締結、反対運動起る
- 1961年 岡井隆『土地よ、痛みを負え』刊
- 1964年 東海道新完成開業、東京オリンピック開催
- 1965年 アメリカ、ベトナム北爆開始、1973年 10数年に及ぶベトナム戦争和平協定調印
- 1967年 公害対策基本法施行
- 1975年 第1回世界婦人（女性）会議（於メキシコ）
- 1976年～ 女性歌人の全歌集刊行相次ぐ。カルチャーセンター開設相次ぐ。
- 1977年 迢空賞・斎藤史『ひたくれなゐ』、現代歌人協会賞・河野裕子『ひるがほ、』角川短歌賞・松平盟子、ミセス短歌賞・石川不二子などこれより各種短歌賞女性歌人並ぶ
- 1978年 総理府初の「婦人白書」刊
- 1978年 大岡信「折々のうた」朝日新聞連載始まる。NHK TV 婦人百科の「短歌入門」開始
- 1979年 『昭和萬葉集』刊行始まる
- 1980年 阿木津英『紫木蓮まで・風舌』、道浦母都子『無援の抒情』刊
- 1986年 男女雇用機会均等法施行
- 1986年 第1回国民文化祭短歌大会
- 1987年 俵万智『サラダ記念日』ベストセラーとなる
- 1989年 昭和天皇没、ソ連解体
- 1991年 湾岸戦争始まる
- 1992年 育児休業法
- 1993年 岡井隆歌会始選者となる
- 1997年 『アララギ』、『女人短歌』終刊
- 1999年 男女共同参画社会基本法、国旗・国歌法施行

- 2000年 三省堂『現代短歌大事典』、1999年岩波『現代短歌辞典』刊  
2001年 配偶者暴力防止法施行  
2005年 首相、女性天皇容認報告  
2006年 少子化進み、出生率1・25最低を記録